



“ジュネーブから今を見る” 今日のヘッドライン

新興国

2017年10月30日

中長期的な拡大が期待される新興国の医療市場 その1

平均寿命の伸びに伴う医療費の増加は、先進国にとどまらず新興国にもみられはじめています。足元の医療市場の中心は先進国となっておりますが、中長期的には新興国の医療市場が拡大することも期待されます。

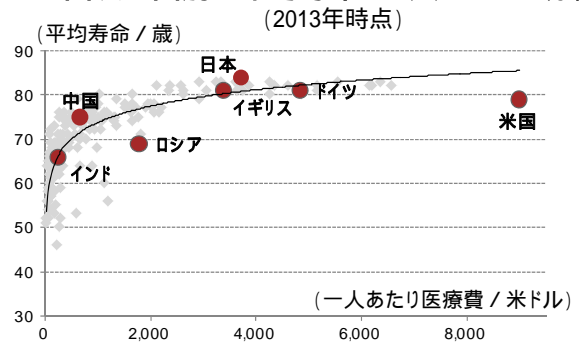
平均寿命と医療費：先進国と新興国の比較

世界保健機関(WHO)のデータを参照して、国別に、一人あたり医療費と平均寿命の関係をみると、概ね右肩上がりの関係となっています(図表1参照)。次に図表1の横軸である一人あたり医療費水準に注目すると、米国が突出する一方、ドイツ、日本、イギリスなど先進国が続き、中国、ロシア、インドなどの新興国は2,000ドル以下に分布しています。現状では、先進国に比べ新興国の一人あたり医療費の水準が低い傾向が見られます。

どこに注目すべきか：新興国をけん引役とした中長期的な医療市場の拡大

次に、今後の医療費の動向を考えます。世界全体で医療費は増加していますが、国別の上昇率は、新興国が先進国を上回る事例が見られます(図表2参照)。1995年から2014年の間で、アメリカの医療費は3.0倍、日本は2.5倍となったのに対し、中国は12.7倍、インドは6.0倍、ロシアは5.9倍と、アメリカ、日本を大きく上回る上昇率となっています。しかも、中国はGDP(国内総生産)の規模では米国に次ぐ水準まで拡大していますが、2014年時点の中国の医療費は、未だ1995年時点の米国と同程度の水準であり、拡大の余地は残されているとも考えられます。同じ新興国の中でも、アフリカ諸国は足元、平均寿命、医療費共にさらに低水準となっています。目先、解決すべき課題は多々ありますが、中長期的にはアフリカ諸国が中国、ロシア、インドなどと同様の道をたどる可能性もあります。経済規模(ストック)の点で劣る新興国は医療費支出が先進国に比べ低い傾向が見られます。一方で、今後も新興国の経済成長率が先進国を継続して上回るならば、医療費への支出が拡大し、医療市場における新興国の存在感が増す展開も想定されます。今後も注目を続けたいテーマと見ています。

図表1：国別の平均寿命と一人あたり医療費



データが取得可能な世界188カ国をプロット
医療費は、一人あたり医療支出総額を購買力平価にて米ドル換算
出所：世界保健機関(WHO)「Global Health Expenditure Database」のデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

図表2：1995年と2014年の医療費比較

	1995年	2014年	上昇率(倍)
米国	10,030	29,857	3.0
日本	1,904	4,737	2.5
中国	790	10,004	12.7
インド	579	3,464	6.0
ロシア	447	2,633	5.9

医療費の単位は億米ドル
医療費は、医療支出総額を購買力平価にて米ドル換算
出所：世界保健機関(WHO)「Global Health Expenditure Database」のデータを使用しピクテ投信投資顧問作成



ピクテ投信投資顧問株式会社

当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売上の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。